

# 巻頭言

## 高齢者医療とは

guest editor 吉田 雅博\*

「少子高齢化」「人生 100 年時代」など、日本における高齢者の位置づけは、年々大きなものとなっている。そして、小児科などの診療科以外では、ほとんどの医療者は、高齢者に対する診療に日々直面している。

ここで、高齢者の定義について考察する。

### 1. 法的な観点から

日本における高齢者の福祉を目的とした法律に「老人福祉法」があり、高齢者が尊厳をもって自立した生活を送ることができるように、必要な福祉サービスの提供や施設の整備を規定している。老人福祉法で規定された「高齢者」は 65 歳以上である。しかし、この法律は 1963 年制定であり、当時に比較して、年齢と生活の質は、大きく変化していると思われる。そして、現在の日本における医療制度では、65 歳から 74 歳までを前期高齢者、75 歳以上を後期高齢者と区分されている。

なお、世界的には、WHO が、65 歳以上を高齢者と定義している。

### 2. 医学的な観点から

日本老年学会「高齢者および高齢社会に関する検討ワーキンググループ」報告書 2024<sup>1)</sup>では、高齢者を「75 歳以上」とし、65～74 歳を「准高齢者」、90 歳以上を「超高齢者」と呼称すべきであると提言している。その理由として、平均余命が延伸していること、日本人高齢者の身体機能が 40 年前と比べて 10～15 年若返っていること、国民の意識の変化などを挙げている。また、75 歳を過ぎると、認知機能障害、ADL(日常生活動作)低下、転倒、低栄養などの老年症候群が有意に増加することも根拠としている。

---

Masahiro Yoshida

\*国際医療福祉大学医学部消化器外科(〒 286-8686 千葉県成田市公津の杜 4-3)

### 3. ChatGPT では

質問：「成人，高齢者，超高齢者の医療の違いはありますか？」

ChatGPT の回答：

#### <成人医療：18 歳以上の成人>

- ・特徴：比較的健康な人が多く，病気予防や生活習慣病の管理が重視されます。
- ・治療法：手術や薬物療法が一般的で，特定の疾患に対する治療が中心です。

#### <高齢者医療：一般的に 65 歳以上>

- ・特徴：加齢に伴う慢性疾患のリスクが高まり，複数の病気を抱えることが多いです。
- ・治療法：免疫力の低下や代謝の変化が影響するため，薬物療法の調整が重要で，生活習慣の改善，リハビリテーションが重要視されます。また，認知症や介護の必要性も考慮されます。

#### <超高齢者医療：80 歳以上，とくに 90 歳以上>

- ・特徴：身体機能の低下が顕著で，複雑な医療ニーズを持つことが多いです。多くの場合，要介護状態になるリスクがあります。
- ・治療法：緩和ケアや在宅医療，リハビリテーションの重要性が増し，患者の生活の質を重視したアプローチが求められます。

以上のように，「高齢者」の定義は，年齢だけで区分できるほど単純ではないと考えられるが，本特集では，日本老年学会の提言に基づき，「75 歳以上，または，65 歳以上で身体機能や認知機能の低下がある患者」を治療対象の高齢者とする。

本特集では，高齢者の腹部救急疾患に対する診断・治療における注意点・課題，さらに，場合によっては若年成人と区別なく選択しうる治療について，各領域の専門家にご執筆いただいた。

多くの読者は，高齢者の診断・治療は，単純な診療体系ではないことは理解しているつもりでも，改めて熟読することで，うなずく内容が満載である。高齢者医療においてはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の介入も重要となり，「用語解説」で取り上げているので参考にしていきたい。日々の診療に大きく役立てていただけるものと期待する。

### 文 献

- 1) 日本老年学会：「高齢者および高齢社会に関する検討ワーキンググループ」報告書 2024，2024 年 6 月 13 日